

関係各位

東京学芸大学附属高等学校 校長 大野 弘



東京学芸大学附属高等学校 第18回 公開教育研究大会のご案内

皆様方には、時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、本校では、第18回公開教育研究大会を以下のとおり開催いたします。是非、多くの教育関係者の皆様にご参加いただき、ご意見、ご助言を賜りたく、ご案内申し上げます。

1. 主題

「教科等横断的な視点からの教育活動の改善～「学習評価」を軸としたカリキュラム・マネジメント～」

本校ではこの三年間「コンピテンシー・ベースのカリキュラム開発」という研究主題に継続して取り組んできました。教科ごとの「学びの本質」を見きわめつつ、資質・能力を育成する授業のあり方やパフォーマンス評価の方法を開発しています。観点別評価の導入など高等学校の現場に「学習評価」の改善が求められている今、本校が培ってきた指導と評価の方法を授業実践のかたちで公開しつつ、学校全体の教育課程を有機的なものへと高めていきたいと考えています。

2. 日時・内容

令和元年11月23日(土)

9:00	9:30～9:50	10:00～10:50	11:10～12:00	12:45～14:15	14:30～16:00
受付	全体会	休憩	公開授業Ⅰ	休憩	公開授業Ⅱ
			昼休み	研究協議会	休憩
					講演会

公開授業Ⅰ

教科	科目	授業者	授業タイトル	授業概要
国語 地理歴史	SSH現代文Ⅰ 地理A	日渡 正行 松本 至巨	地図についての情報発信	「SSH現代文Ⅰ」は論理的に発信する力をつけるための学校設定科目であり、探究活動や他の科目につなげることを目指している。今回は「地理A」との連携を意識しながら、地図の読解について発信することを学ぶ。
数学	数学B	荻原 洋介	ベクトルの扱い ～座標からベクトルへ～	2022年以降は『ベクトル』が数学Cに移行する。図形と方程式の知識を用いて、座標からベクトルを視野に入れて、ベクトルの指導の可能性とその教育的意義を考えたい。
理科	物理基礎	櫻井 一充 市原 光太郎	360°カメラ映像教材を利用した授業	360°カメラ映像を教材として導入することで、生徒が映像から発見・判断・分析する活動を授業に取り入れることができる。本授業ではこれを利用し、これから高校物理に臨む生徒たちの興味を惹起する授業を行う。
理科	生物基礎	大谷 康治郎	免疫の授業と生物の階層性 ～カリキュラム・マネジメントの視点で捉える評価～	免疫では、個体レベルの事象を中心にしながらも、細胞レベルや抗体などの分子レベルを取扱う。また、健康、医療などの社会的な問題へも大きく関わる。この単元ではどのような資質・能力を育成すべきか、検討したい。
理科	地学基礎	齋藤 洋輔	「野外実習」における主体的・対話的で深い学びの実践～カリキュラム・マネジメントの視点で捉える評価～	城ヶ島で行われる「野外実習」のまとめの授業として、成果のポスターを活用しながら、城ヶ島の形成史についての議論をより深めていきたい。なお、地学基礎のカリキュラムは「反転授業」にて実施している。
芸術	工芸Ⅰ	神田 春菜	工芸の美しさって何だろう? ～素材の表情に着目して鑑賞しよう～	美術及び工芸では表現活動と鑑賞活動を相互に関連付け、美術及び工芸における思考力、判断力、表現力等の育成の充実を目指している。公開授業では見立てを軸に素材を生かした表現に着目した鑑賞の授業を行う。
芸術	音楽Ⅰ	居城 勝彦	劇音楽の演じ手になろう	音楽では表現と鑑賞の往還を意識した活動を展開している。本活動では「能」と「ミュージカル」を取り上げ、それぞれの成立背景を理解し、それらをもとに演じ手になることを意識して鑑賞や表現に取り組む。

芸術	書道 I	荒井 一浩	書の本質に近づくために～改めて書表現を考える～	鑑賞を深めることで漠然とした印象からよりの確かな書風を把握することを試みてきた。しかし、それが生徒の目を細部に向けさせ、言葉ではなく文字を、文字ではなく点画を書いてしまう。それを打開するための方策を考える。
外国語	コミュニケーション英語 I	加藤 淳	新学習指導要領に対応したコミュニケーション英語の授業実践	「学びに向かう力・人間性」「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を、アクティブ・ラーニングを通して涵養する。あらゆる学校で実践可能な教科書を使った4技能5領域を伸ばす授業について、考察を深めたい。
外国語	コミュニケーション英語 I	豊嶋 維	交替制ペアワークを通じたスピーキング活動	スピーキング活動を行う上でペアワークは重要な手法であるが、本授業では各活動ごとにペアを交代していく。活動例は自分の意見を述べるもの、教科書のリテリング、絵の描写などを展開していく。

公開授業Ⅱ

教科	科目	授業者	授業タイトル	授業概要
国語	古典 B	森安 惟澄	光源氏と一緒にテツガクしよう ～学びに向かう態度の育成と評価～	『源氏物語』『小柴垣のもと』等を素材に「人は何故〈似ているもの〉に惹かれるのか」というテーマを追求する。生徒が先人の考え方を学ぶ中で抱いていく疑問の質を評価の観点とし、人間の本質について考えさせる。
公民	現代社会	楊田 龍明	同性婚を考える	「日本は同性婚を認めるべきか。皆で議論したい。【LGBTカップルは生産性がない】という意見もある。私は…」この生徒からの問いを踏まえて「公共的な空間における人間としての在り方生き方」を考えてみたい。
数学	数学 I	井上 哲明	統計の活用 ～推定・仮説検定の考え～	次期指導要領の改訂で統計の扱いが重視される傾向にある。本校では数 I でデータの分析を学習したことを受け、探究授業の中で検定の考えを学習する。今回、推定や検定の考えを活用して、問題場面を分析する。
理科 地理歴史	化学基礎 日本史 A	成川 和久 加藤 将	人間生活における金属の利用の化学と歴史～教科横断的な視点からの授業の実践～	酸化還元反応を学習する中で金属の反応性について学習する。人間生活での化学の役割における金属の利用を考えると同時に、人間生活と歴史、特に日本史とのつながりに焦点を当てて金属の利用の変遷を関連付けて学ぶ。
理科	地学基礎	田中 義洋	地球環境を設計する	本校は2017年度より2期目のSSHに取り組んでいる。2期目の課題の1つとして「工学的な発想を取り入れた教科・科目」の開発に取り組んでいる。今回は、地学基礎におけるその成果を実践した授業を行う。
保健体育	体育	瀧澤 政彦	「柔道」 受の主體的協力による投げ技の習得	受（投げられる側）は取（投げる側）に対して従属的に協力することが一般的であるが、あえて受側から取の動作に対して主体的に動作を導く対応を行うことで、技の習得に関して受の影響が大きいことを体感させていきたい。
芸術	工芸 I	神田 春菜	工芸の美しさって何だろう？ ～素材の表情に着目して鑑賞しよう～	(公開授業 I より継続)
芸術	音楽 I	居城 勝彦	劇音楽の演じ手になろう	(公開授業 I より継続)
芸術	書道 I	荒井 一浩	書の本質に近づくために ～改めて書表現を考える～	(公開授業 I より継続)
家庭科	家庭基礎	栗原 智美	災害を意識した授業を考える	生徒の災害に対する意識を知り、生徒自身が課題を発見し、科学的に考え、協働しながら発信しようと試みる機会を持つ授業をしたい。ワールドカフェ方式などのアクティブな方法を取り入れ、図書館を活用したナッジ授業の展開にする。

外国語	コミュニケーション 英語II	瀬戸口 亜希	Working against the Clock	1)英語で自分を表現することに少しでも自信をつけ、2)より高いレベルに手を伸ばし、3)英語を嫌いにならないことをゴールにした授業づくり。教科書の文章から離れ、学んだことを材料として自分の考えを英語で表現できることを目指す。
-----	-------------------	--------	---------------------------	---

研究協議会

教科	研究テーマ	提案者	助言講師	所属
国語	「国語」の視野を広げる ～新教育課程に向けて～	国語科	渡辺 貴裕	東京学芸大学 教職大学院 教育実践創成講座准教授
公民	新科目「公共の扉」のひらき方	楊田 龍明	藤原 孝章	同志社女子大学現代社会学部 特任教授
数学	未定	数学科	未定	
理科	「理科の学習評価」について	理科	未定	
保健体育	中学校武道必修化の功罪	瀧澤 政彦	齋藤 祐一	環太平洋大学 講師
芸術	芸術科からみたカリキュラムマネジメント	芸術科	未定	
家庭科	「災害を意識した生徒の身近な課題」を深める授業 について	栗原 智美	三浦 巧也	東京農工大学 准教授
外国語 (英語)	新学習指導要領を踏まえた取り組み	加藤 淳 豊嶋 維 瀬戸口 亜希	未定	

講演会

テーマ	「新高等学校学習指導要領実施を見すえたカリキュラム・マネジメントのあり方とその評価（仮題）」
講師	根津 朋実 先生（筑波大学人間系教育学域 教授）

3. 後援 東京都教育委員会

4. 参加申込

参加ご希望の方は本校HP(<http://www.gakugei-hs.setagaya.tokyo.jp>)にて11月22日までにお申し込みください。なお、お弁当の申し込みは11月19日までとさせていただきます。

5. 本校へのアクセス

- 電車**
- ・東急東横線「学芸大学」駅下車 徒歩 15分
 - ・東急田園都市線「三軒茶屋」駅下車 徒歩 20分

バス（東急バス）

- ・【渋谷駅】南口「野沢龍雲寺循環」、「東京医療センター」行き
- ・【目黒駅】西口「三軒茶屋」行き
- ・【三軒茶屋駅】「目黒駅」行き

※いずれも「学芸大学附属高校」下車 徒歩 1分

6. その他

参加費は無料（資料により実費をいただく場合もあります）。
なお、お弁当を注文された方は、当日、1000円を申し受けます。

問い合わせは、下記までお願い致します。

東京学芸大学附属高等学校

〒154-0002 東京都世田谷区下馬 4-1-5

TEL : 03-3421-5151(代) FAX : 03-3421-5152

E-mail : gaku-ken@gakugei-hs.setagaya.tokyo.jp

担当 : 研究部 若宮 知佐

